

# リンパ系フィラリア症 その①

## ▶ リンパ系フィラリア症とは

リンパ系フィラリア症 (Lymphatic Filariasis、以下フィラリア症) の病原体は、バンクロフト糸状虫 (マレー糸状虫、チモール糸状虫) という糸状の線虫 (細く長い糸状の虫体) です。雄は約40mm長、雌は60~80mm長で、リンパ管・リンパ節に寄生します。雌成虫より生み出された仔虫 (マイクロフィラリアという) は0.25mm長で、顕微鏡でしか見えません。仔虫は血液中に存在します。

感染者の血液中の仔虫が夜間、中間宿主となる蚊 (流行地によって蚊の種類は異なる) に吸血時に摂取されます。仔虫は蚊の胸筋内で発育成長し、1.5mm長の感染型幼虫となります。この幼虫が寄生する蚊がヒトを吸血する時、感染型幼虫が侵入します。幼虫はリンパ管に移動し、約3ヶ月で成虫となり、仔虫を産み出します。興味あることに、仔虫は夜間にのみ血液中に出現します。

媒介蚊は流行地によって異なります。イエカ、ハマダラカ、ヤブカ、ヌマカなどの蚊が媒介します。

## ▶ 糸状虫の生活環

